

(資料) 長野県砂防年表

細ゴシック：県のできごと
太ゴシック：災害
明朝体：国のできごと

年次	記事
弘化4年	善光寺地震。岩倉山の抜けが犀川に天然ダムを形成、決壊し、善光寺平洪水。倉並みの抜けは22戸を埋没し、60人の死者を出した。虫倉山中腹の裸岩の崩壊により54人の死者を出した。
明治5・6年	ヨハネス・デレーケ氏らによって淀川、木曾川、信濃川等の改修計画調査立案
明治12年	信濃川の直轄砂防事業着手。(犀川、千曲川)
明治13年	【長野県の砂防事業の始まり】 オランダ人技師の指導により南木曾町蘭川で工事実施
明治14年～	佐野川、浅川、岡田川、蜂ヶ沢、山布施沢、牛伏川、泥沢等で工事実施 内務省直轄砂防事業で犀川、土尻川沿いで地すべり防止工事
明治17年	茶臼山地すべり発生
明治19年	内務省第三区土木監督署設置 内務省直轄砂防事業で小川村富吉地すべり防止工事
明治30年	砂防法制定
明治31年	補助事業で牛伏川に本県初めての県営砂防工事 茶臼山、犀川、土尻川等に補助砂防事業として地すべり防止工事
明治37年	夜間瀬川に石積堰堤施工
明治38年	蜂ヶ沢他11溪流で第1期砂防工事竣工。第三区土木監督署が新潟土木出張所に改称
明治44年	稗田山大崩壊
大正7年	内務省新潟土木出張所の管下で各地に砂防工事が設置される
昭和7年	全国的に実施された農村匡救事業により、砂防事業費が大幅に伸びる 内務省新潟土木出張所信濃川水系砂防事務所設置 赤木正雄博士の計画による夜間瀬川の流路工実施 夜間瀬川砂防事務所設置
昭和9年	長野県治水砂防協会発足
昭和11年～	梓川に赤木博士によるわが国初の釜ヶ淵上流アーチ堰堤建設
昭和12年	内務省名古屋土木出張所小渋川水系砂防工場設置 国において地すべり対策費が予算計上
昭和14年	砂防課が河川課から独立、犀川砂防事務所、千曲川砂防事務所、鹿塩川砂防事務所設置
昭和17年	土尻川砂防事務所、姫川砂防事務所設置
昭和21年	茶臼山等に地すべり発生
昭和22年	飯田市に天竜川工事事務所設置 新潟、富山、長野県の「三県地すべり対策協議会」を結成
昭和23年	「三県地すべり対策協議会」は「全国地すべり対策協議会」に発展
昭和27年	14県において補助地すべり対策事業開始(茶臼山等)
昭和33年	「地すべり等防止法」建設農林両省提案により制定
昭和35年	治山・治水緊急措置法が制定。第1次5箇年計画樹立
昭和36年	伊那谷梅雨前線豪雨の大災害(6月)
昭和39年	信濃川水系砂防事務所を松本砂防工事事務所に改称 昭和天皇、茶臼山御視察
昭和40年	松代群発地震発生(8月)

年次	記事
昭和41年	天竜川工事事務所を天竜川上流工事事務所に改称
昭和42年	大型砂防堰堤調査建設に着手 建設省は急傾斜地崩壊対策事業を補助事業として開始
昭和43年	山ノ内町星川で急傾斜地崩壊対策事業を実施
昭和44年	「急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律」制定
昭和52年	木曾川水系滑川、与川、伊奈川、蘭川で直轄事業実施
昭和53年	天竜川水系遠山川流域で直轄事業実施
昭和56年	砂防事業100年記念長野県大会開催（7月） 台風第15号により須坂市宇原川で大規模な土石流発生（9月） 砂防激甚災害対策特別緊急事業により6基の堰堤建設
昭和59年	長野県西部地震発生、死者行方不明者29人、御嶽山腹大崩壊・松越地区の崩壊等土砂災害多発（9月） 砂防激甚災害対策特別緊急事業により10基の堰堤建設 地すべり激甚対策特別緊急事業を王滝村3地区で実施 災害復旧事業で地すべり防止施設・急傾斜地崩壊防止施設も対象となる（清水山地すべり施設等採択される）
昭和60年	雪崩対策事業を補助事業として開始 長野市地附山で地すべり発生、死者26人（7月） 災害関連緊急地すべり・地すべり激甚災害対策特別緊急事業を実施
昭和61年	総合土石流対策モデル事業で王滝村に雨量観測局等土石流監視施設を設置、警戒避難体制を確立 長野市茶臼山地すべり対策（保全整備）事業実施
昭和62年	「セイフティ・コミュニティモデル事業」を諏訪市角間川で実施 飯山市、白馬村で補助雪崩対策事業実施
昭和63年	「水と緑の砂防モデル事業」を富士見町立場川等で実施 「緑の砂防ゾーン創出事業」を白馬村犬川等で実施 「土石流危険渓流総合整備事業」を姫川砂防事務所で実施 「地すべり監視モデル事業」を長野市御所平で実施 直轄地すべり対策事業大鹿村入谷、南信濃村此田地区で実施
平成元年	「火山対策砂防事業」を諏訪市角間川等で実施 「総合土石流対策モデル事業」を長野地区で実施 「砂防学習ゾーンモデル事業」を松本市牛伏川で実施 「避難関連急傾斜地崩壊対策事業」を松川町松川で実施 「雪対策砂防事業」を栄村橋場川で実施 犀川砂防事務所発足50周年記念式典開催（10月）
平成2年	「流域保全砂防事業」を木曾町兎野沢で実施 「砂防ダム機能増進事業」を小谷村濁沢で実施 「ふるさと砂防モデル事業」を富士尾沢川で実施 「急傾斜地崩壊施設緊急改築事業」を飯田市水の手で実施 「総合雪崩対策モデル事業」を小谷村月岡で実施 長野県砂防課発足50周年記念式典開催（11月）
平成3年	「県単地すべり防止施設修繕事業」創設 「うるおいの斜面整備事業」南木曾町妻籠宿で実施 「県単急傾斜地崩壊防止施設修繕事業」創設

年次	記事
平成4年	「火山噴火警戒避難対策事業」創設 「火山噴火警戒避難対策事業」を浅間山・御嶽山で実施 「特定利用斜面緊急保全事業」を生坂村大倉で実施 「特定地下水関連地すべり対策事業」を池田町天崎で実施 「地すべり地域総合対策事業」を中条村日下野で実施 「緑の斜面保全整備事業」を長野市狐池で実施 「わがまちの斜面整備事業」を喬木村寺の前で実施 姫川砂防事務所発足50周年記念式典開催（10月） 白馬村で雪崩防災週間シンポジウム開催（12月）
平成5年	「水と緑豊かな溪流砂防事業」創設 「ふるさと砂防事業」創設 土尻川砂防事務所発足50周年記念式典開催（1月） 栄村青倉地区で県内初の雪崩防止策を設置
平成6年	小谷村清水山で地すべり発生
平成7年	「ふるさと砂防事業」を上田市三郎川で実施 「ふれあい斜面整備事業」伊那市沢で実施 「わがまちの斜面構想策定事業」に長野市等認定 梅雨前線豪雨災害により県北部一帯に激甚な被害（7月） 災害関連緊急砂防事業を小谷村等の45溪流で実施 砂防激甚災害対策特別緊急事業を12溪流で実施 災害関連緊急地すべり対策・急傾斜地崩壊対策事業を小川村等37箇所で開催 長野県治水砂防協会設立60周年式典開催
平成8年	「情報基盤緊急整備事業」創設 <u>長野県砂防ボランティア協会設立（11月）</u> 小谷村・糸魚川市境の蒲原沢で土石流発生死者14人（12月）
平成9年	新潟、宮城、長野の「3県5砂防事務所サミット」小谷村で開催 「地震と土砂災害シンポジウム」長野市で開催（9月） 都市山麓グリーンベルト整備構想を岡谷、諏訪、下諏訪で開始
平成10年	「砂防溪畔林増進事業」を信濃町鳥居川で実施 長野オリンピック冬季競技大会開催（2月） 長野パラリンピック冬季競技大会開催（3月） 白馬村倉下で地すべり発生（3月） 南信濃村須沢で崩壊性地すべり発生（10月） 砂防学会シンポジウムを長野市で開催（10月）
平成11年	「災害弱者関連施設に関わる調査及び対策事業の強化」 土砂災害の防止に関する郵便局との基本協定を6町村で締結 長野市下石川で地すべり発生（9月）
平成12年	秋雨により下伊那郡を中心に各地で土砂災害多発 阿智村井ノ洞、根羽村井戸入沢等で土砂災害
平成13年	土砂災害防止法施行（4月） 基礎調査開始 白骨で県内初の災害関連雪崩対策事業が採択される
平成14年	<u>降雨情報等をリアルタイムで配信する「砂防情報ステーション」の運用開始（4月）</u> 牛伏川階段工が有形文化財に登録（8月） 釜ヶ淵堰堤が有形文化財に登録（8月） インタープリメント2002が松本市等で開催（8月）

年次	記事
平成15年	砂防指定地管理条例施行（4月） 濁沢で概成堰堤のスリット化を施工 飯島町で土砂災害相互通報システム完成
平成16年	土砂災害防止法区域指定1号（12月 白馬村） 浅間山が中噴火 台風第23号により県下全域に被害を受ける 濁沢でワイヤーネット式砂防堰堤を施工 「信州・長野県における土砂災害対策のあり方」を発表
平成17年	「総合流域防災事業」創設 防災メールの配信を開始（4月） 長野県治水砂防協会設立70周年記念式典開催（8月）
平成18年	白馬村で雪崩防災シンポジウム開催（1月） 第1回土砂災害に対する全国統一防災訓練実施（6月） 豪雨により県中部（岡谷市、辰野街、諏訪市など）に激甚な災害を受ける 土砂災害による死者12人（7月）
平成19年	御嶽山が小噴火 「土砂災害を知り、減災に取り組む」シンポジウムを岡谷市で開催（5月） 「土砂災害講習会」を長野市で開催（6月） 土砂災害警戒情報の運用を開始（6月） 「地震による土砂災害の教訓を継承し、現代に活かす～善光寺地震から160年～」シンポジウムを長野市で開催（9月）
平成20年	「第26回土砂災害防止推進の集い（全国大会）」を松本市で開催（6月）
平成21年	荏沢川石堰堤が有形文化財に登録（1月） 薬師沢石張水路工が有形文化財に登録（1月） 釜無川唐沢堰堤が有形文化財に登録（2月） 小渋川上蔵堰堤が有形文化財に登録（4月） 浅間山が小規模噴火（2月） 「土砂災害のおそれのある災害時要援護者関連施設に関わる調査および土砂災害対策の推進」 長野県砂防ボランティア協会と災害協定締結
平成22年	社会資本整備交付金創設 砂防設備等緊急改築事業創設 池田町相道寺で地すべり発生（4月） 「砂防学会通常総会並びに研究発表会」（長野大会）を長野市で開催（5月） 局地的豪雨により長野市、飯田市、青木村などで土砂災害多発 地附山地すべり25年行事開催（日本地すべり学会中部支部と共催） 地附山親子観察会の開催を開始（日本地すべり学会中部支部と共催） 住民主導型警戒避難体制構築の取組を開始（佐久市苦水地区）
平成23年	地域自主戦略交付金創設 長野県北部地震発生（最大震度6強）（3月） 柴村中条川で斜面崩壊発生（3月） 土砂災害防止法改正（国による緊急調査の実施が追加） 伊那谷36災害50年シンポジウム開催（天竜川上流河川事務所との共催）
平成24年	宇原川災害30年座談会を開催 「河川砂防情報ステーション」の運用開始 浅間山直轄火山砂防事業に新規着手（利根川水系砂防事務所浅間山出張所開設） <u>牛伏川階段工が重要文化財に指定される（7月）</u> 長野県土砂災害防止功労者表彰制度の創設 防災遺産シンポジウム「重要文化財牛伏川階段工」を開催

年次	記事
平成25年	<p>長野県総合5か年計画〔しあわせ信州創造プラン〕策定 防災・安全交付金創設 急傾斜地崩壊防止施設緊急改築事業創設 小谷村池原地区で地すべり災害 防災遺産シンポジウム「芦澤石積堰堤」を開催</p>
平成26年	<p>芦澤石積堰堤が有形文化財に登録（10月） 南木曾町梨子沢で土石流災害（死者1人）（7月） 御嶽山噴火（戦後最大の火山災害）（9月） 神城断層地震発生（最大震度6弱）（11月） 土砂災害防止法改正（土砂災害警戒情報を法律に明記）</p>
平成27年	<p>小川村、小谷村で平成7年豪雨災害20年シンポジウム開催（7月） 長野県治水砂防協会設立80周年記念式典開催（8月） 小海町芦平地区で家屋下部の斜面が崩壊（12月）</p>
平成28年	<p>砂防関係施設長寿命化計画を策定、公表（3月） 土砂災害防止法に基づく警戒区域等の指定完了（9月） 活火山法改正後初めての火山砂防フォーラムが木曾町で開催される（10月）</p>
平成29年	<p>土砂災害防止法、水防法改正、要配慮者利用施設の避難確保計画作成、避難訓練実施が義務化（5月） 飯山市井出川上流で融雪により崩壊発生、下流で土石流災害（5月） 集中豪雨により九州北部で大規模な土石流災害、大量の流木が被害を拡大（7月） 台風第21号に伴う豪雨により生坂村大倉で地すべり災害（10月）、平成30年2月、災害関連緊急地すべり対策工事採択 全国の中小河川緊急点検結果に基づき透過型砂防堰堤等の整備など「中小河川緊急治水対策プロジェクト」に着手（12月）</p>
平成30年	<p>しあわせ信州創造プラン2.0 ～学びと自治の力で拓く新時代～ 策定 河川砂防情報ステーションリニューアル運用開始（メッシュ細分化など） 豪雨により県下で土砂災害発生、災害関連緊急砂防等事業3件採択（7月1件、9月1件、10月1件） 牛伏川階段工完成100周年記念行事開催（10月） 夜間瀬川直轄砂防施工100周年シンポジウム開催（11月） 「重要インフラ緊急点検」の結果を踏まえ、「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」に着手（11月）</p>
平成31年 令和元年	<p>事業間連携による事業効果の早期発現や最大化、大規模事業等を計画的・集中的に推進するための補助事業制度を創設 小川村で薬師沢有形文化財登録10周年記念式典開催（5月） 天竜川中流地区地すべり対策事業着手（直轄施工3地区、県施工1地区） 長野県砂防ボランティア協会がNPO法人化（6月）赤牛先生派遣事業始まる（9月生坂村） 災害伝承カード作成、各建設事務所で配布開始 令和元年東日本台風災害、東北信を中心に激甚な被害（10月）</p>
令和2年	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大広がる 災害関連事業の迅速化のため、応急仮設部分を簡易な申請書類で部分的に申請できるよう制度改正 砂防災害関連事業による砂防堰堤背面の土砂掘削が可能となる制度改正 個別補助事業として、大規模特定砂防等事業が火山砂防等へ拡充、大規模更新砂防等事業が創設された 急傾斜地崩壊対策事業（交付金）の採択要件が、要配慮者利用施設等関連の場合、がけ高の要件を5m以上に緩和 令和2年7月豪雨により土砂災害84件発生（6～7月） 「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を閣議決定（12月）</p>

歴代砂防課職員名簿 (平成4年度以降)

年度	課長	技術専門幹	地すべり 対策幹	事務補佐	庶務係		
					係長	係員	
平成4	大久保 駿	尾坂 壽夫	今井 康允	大槻 一雄	大槻 一雄	青木 基宣	町田 文雄 山川千恵子
5	小林 英昭	尾坂 壽夫	菅沼 昭彦	丸山 栄洋	丸山 栄洋	阪田 行男	山川千恵子 町田 文雄
6	小林 英昭	塩入 正信	菅沼 昭彦	丸山 栄洋	丸山 栄洋	阪田 行男	山川千恵子 町田 文雄
7	小林 英昭	塩入 正信	小林 正登	駒村 和久	駒村 和久	山川智恵子	黒岩 正志
8	近藤 浩一	山岸 久一	小林 正登	小出 五郎	小出 五郎	黒川 正志	石澤 啓二
9	近藤 浩一	北原 正義	小林 正登	白田 正夫	白田 正夫	黒川 正志	石澤 啓二
10	近藤 浩一	北原 正義	中澤 守	白田 正夫	白田 正夫	黒川 正志	石澤 啓二
11	坂口 哲夫	北原 正義	中澤 守	西 裕司	宮沢 邦利	黒川 正志	石澤 啓二
12	坂口 哲夫	平沢 清		西 裕司	仙仁 健一	石澤 啓二	長澤 伯穂
13	堀内 成朗	平沢 清		小山 武司	仙仁 健一	内野 祐志	長澤 伯穂
年度	課長	技術専門幹 (技術幹) (企画幹)	技術専門幹	事務補佐	庶務係 (総務係)		
					係長	係員	
14	堀内 成朗	三井 宏人		小山 武司	橋本 和俊	内野 祐志	
15	堀内 成朗	荒井 孝幸		大日方敏郎	伊藤 智	内野 祐志	
16	原 義文	手塚 秀光			黒井 秀彦	金子 康	
17	原 義文	手塚 秀光			黒井 秀彦	宮沢 高男	金子 康
18	原 義文	米山秀比古	松本 久志		大槻 直樹	宮沢 高男	
19	栗原 淳一	松本 久志			大槻 直樹	宮沢 高男	
20	栗原 淳一	戸谷 勝弘			大槻 直樹	新倉 宏志	
21	長井 隆幸	戸谷 勝弘			保科 千丈	新倉 宏志	
22	長井 隆幸	野本 幸男			保科 千丈	北澤 信之	
23	長井 隆幸	野本 幸男			石澤 啓二	北澤 信之	
24	田中 秀基	荻野 厚			石澤 啓二	小林 利治	
25	田中 秀基	柳瀬 勝弘			西澤いづみ	小林 利治	
26	田中 秀基	木村 智行			西澤いづみ	小林 利治	
27	蒲原 潤一	松本 寛			北原 俊樹	平林 隼	
28	蒲原 潤一	松本 寛			北原 俊樹	平林 隼	
29	田下 昌志	松本 寛			北澤 良和	平林 隼	
30	田下 昌志	細川 容宏			北澤 良和	山田 佳代	
令和元	藤本 済	坂口 一俊			北澤 良和	山田 佳代	
2	藤本 済	坂口 一俊			井出 毅	山田 佳代	

※平成17～18年度にかけ、係を「ユニット」、課長を「チームリーダー」と呼称された時期があるが、表示が煩雑となるため割愛した。

注 ア. 各年4月1日または5月1日現在（職員録から採用）
 イ. 昭和14年～平成3年度の名簿については、1992年版砂防史をご覧ください。

年度	調査管理係					砂防第一係		
	係長	係員				係長	係員	
平成4	北原 正義	小林 政広	宮下 善人			尾坂 壽夫	戸谷 勝彦	早川 秀輔
5	北原 正義	小林 政広	宮下 善人			尾坂 壽夫	三井 宏人	早川 秀輔
6	水野 泰秀	小林 政広	宮下 善人			塩入 正信	三井 宏人	荻野 厚
7	水野 泰秀	小林 政広	鈴木 顕司			塩入 正信	原 明善	荻野 厚
8	水野 泰秀	荻野 厚	鈴木 顕司			山岸 久一	原 明善	丸山 泰正
9	松本 久志	荻野 厚	鈴木 顕司			北原 正義	荻原 公寿	丸山 泰正
10	松本 久志	藤本 濟	鈴木 顕司			北原 正義	荻原 公寿	丸山 泰正
11	松本 久志	細川 容宏	松下 和永	長澤 伯穂		北原 正義	荻原 公寿	北澤 学
12	松本 久志	細川 容宏	松下 和永			平沢 清	荻原 公寿	北澤 学
13	原 明善	細川 容宏	松下 和永			平沢 清	竹村 正	伴野 光彦 宮崎 重人
年度	調査管理係					砂防係		
	係長	係員				係長	係員	
14	石井 杉男	足立 修	本井 宏宣	伴野 光彦	松下 和永	小熊 友和	竹村 正	野崎 隆一
15	石井 杉男	足立 修	本井 宏宣	伴野 光彦	小松 幹男	佐藤 知章	坪田 浩昭	野崎 隆一
16	石井 杉男	足立 修	本井 宏宣	荻窪 孝	小松 幹男	佐藤 知章	小山 栄樹	宮崎 重人
17	石井 杉男	大月 哲也	荻窪 孝	西山 広一	田邊 政貴 木下 弘志	柳瀬 勝弘	小山 栄樹	大澤 和幸
18	野本 幸男	大月 哲也	荻窪 孝	西山 広一	木下 弘志	柳瀬 勝弘	大澤 和幸	小山 栄樹
19	野本 幸男	大月 哲也	西山 広一	前田 英己	木下 弘志	岡村 幸男	大澤 和幸	小山 栄樹
20	藤本 濟	西山 広一	玉川 博之	前田 英己	下田 達也	岡村 幸男	田中 隆	宮下 覚
21	藤本 濟	前田 英己	玉川 博之	渡辺 秀明	下田 達也	坂下 伸弘	下平 晃稔	池田 誠
22	藤本 濟	前田 英己	渡辺 秀明	川上 忠宏	宮下 尚子	坂下 伸弘	竹村 正	西澤 賢
23	細川 容宏	本藤 晴己	渡辺 秀明	川上 忠宏	宮下 尚子	松本 寛	竹村 正	西澤 賢
24	細川 容宏	本藤 晴己	渡辺 秀明	川上 忠宏	柳沢 未夫	松本 寛	竹村 正	世古 元司
25	細川 容宏	本藤 晴己	深澤 哲次	小笠原和吉	柳沢 未夫	丸山 泰正	吉川 英昭	池田 元栄
26	細川 容宏	矢口 大輔	小笠原和吉	今井 文乃	臼井 雅夫	丸山 泰正	傳田 利光	吉川 英昭
27	坪田 浩昭	矢口 大輔	小笠原和吉	今井 文乃	臼井 雅夫	丸山 泰正	傳田 利光	吉川 英昭
28	坪田 浩昭	細川 盛樹	関 達也	今井 文乃	臼井 雅夫	丸山 泰正	傳田 利光	北原 誠
29	坪田 浩昭	細川 盛樹	関 達也	笹田 麻純	篠田 健太	西澤 賢	傳田 利光	北原 誠
30	坪田 浩昭	細川 盛樹	笹田 麻純	山口 有理	篠田 健太	西澤 賢	北原 誠	矢澤 祥道
令和元	青柳 孝博	河野 義隆	笹田 麻純	篠田 健太	夏目 明歩	藤井 隆男	北原 誠	矢澤 祥道
2	青柳 孝博	河野 義隆	山崎 和貴	夏目 明歩	林 愛美	藤井 隆男	矢澤 祥道	小松 美緒

年度	砂防第二係			地すべり係			
	係長	係員		係長	係員		
平成4	小林 正登	岡村 幸男	清水 貞良	宮島 孝夫	三井 宏人	小林 寿利	
5	菅崎 円	岡村 幸男	北沢 敬康	大口 浩一	清水 貞良	小林 寿利	
6	佐藤 博文	岡村 幸男	北沢 敬康	大口 浩一	清水 貞良	小林 寿利	
7	佐藤 博文	安塚 弘明	北沢 敬康	木下 征男	清水 貞良	川住淳一郎	
8	倉田 正弘	安塚 弘明	北沢 敬康	木下 征男	藤本 濟	川住淳一郎	
9	倉田 正弘	安塚 弘明	青木 能健	丸山 知章	藤本 濟	川住淳一郎	
10	倉田 正弘	浜 弘安	青木 能健	丸山 知章	加藤 裕之	矢口 大輔	
11	篠原 定良	浜 弘安	青木 能健	丸山 知章	加藤 裕之	矢口 大輔	
12	篠原 定良	浜 弘安	竹村 正	小熊 友和	加藤 裕之	矢口 大輔	
13	篠原 定良	野崎 隆一	北澤 学	小熊 友和	五明 啓一	矢口 大輔	
年度	砂防係 (続き)			地すべり係			
	係員 (続き)			係長	係員		
14	宮崎 重人	中川 文晴		三井 宏人	田下 昌志	五明 啓一	藤井 隆男
15	宮崎 重人	中川 文晴		荒井 孝幸	田下 昌志	五明 啓一	藤井 隆男
16	坪田 浩昭	中川 文晴		手塚 秀光	田下 昌志	藤井 隆男	山本 浩二
17	坪田 浩昭	中川 文晴		手塚 秀光	荻原 公寿	藤井 隆男	山本 浩二
18	田中 隆	下平 晃稔		松本 久志	荻原 公寿	三井 康道	山本 浩二
19	田中 隆	下平 晃稔		松本 久志	荻原 公寿	三井 康道	井原 一馬
20	池田 誠	下平 晃稔		戸谷 勝弘	坂口 一俊	三井 康道	井原 一馬
21	井原 一馬	世古 元司		戸谷 勝弘	坂口 一俊	宮下 覚	関 達也
22	池田 誠	世古 元司		野本 幸男	柳沢 豊茂	宮下 覚	関 達也
23	世古 元司	清水 将之		野本 幸男	柳沢 豊茂	成田 穂澄	関 達也
24	村田 郁央	清水 将之		荻野 厚	柳沢 豊茂	成田 穂澄	牛澤 大介
25	成田 穂澄	清水 将之		柳瀬 勝弘	柳沢 豊茂	忠地 孝	牛澤 大介
26	池田 元栄	成田 穂澄		木村 智行	荻窪 孝	忠地 孝	牛澤 大介
27	丸山 秀司	石田 美雪		松本 寛	荻窪 孝	忠地 孝	牛澤 大介
28	山田 晃	丸山 秀司		松本 寛	矢口 大輔	忠地 孝	山口 有理
29	山田 晃	丸山 秀司		松本 寛	池田 誠	飯島 良和	山口 有理
30	山田 晃	丸山 秀司		細川 容宏	池田 誠	飯島 良和	池部 功一
元	小松 美緒	北原 和樹		坂口 一俊	鈴木 祥一	諏訪 有祐	池部 功一
2	北原 和樹	渡邊 輝嗣		坂口 一俊	鈴木 祥一	諏訪 有祐	池部 功一